かべられた色とりどりの舟が平安の雅を思わせる。

江戸時代には，これらの舞台が「名所」として人々に意識されるようになった。そして，寺社への参詣とともに景勝地詣でが隆盛した。嵯峨野は今も清水寺周辺に次ぐ京都を代表する名所となっている。

寺社への参詣や景勝地詣でが盛んになるにつれ，それらの人々をもてなすための産業が盛んになった。江戸末期に書かれた「筆満可勢（ふでまかせ）」では，大井川河畔に宿屋の存在が示されており，また１８世紀頃に書かれた司馬江漢（しばこうかん）の旅行記では，田楽茶屋の存在が示されている。現在でも，地元の竹を使った伝統工芸品などの土産物屋や料亭，料理旅館などが，嵯峨野，嵐山地域に点在し，和を基調とするそれらの建物が美しい景色に溶け込んでいる。

このように，嵯峨野の人々は，京の皇族や貴族が別業地を営み，また文学などに表現される風光明媚な嵯峨野の風景を大切にし，この景勝地を訪れる人々をもてなす営みが今なお続けられている。

写真2-113　嵯峨野の風景

写真2-114　大沢の池　大覚寺

写真2-115　大堰川　渡月橋

写真2-116　嵯峨野の土産物店

(3)　京街道と京の七口

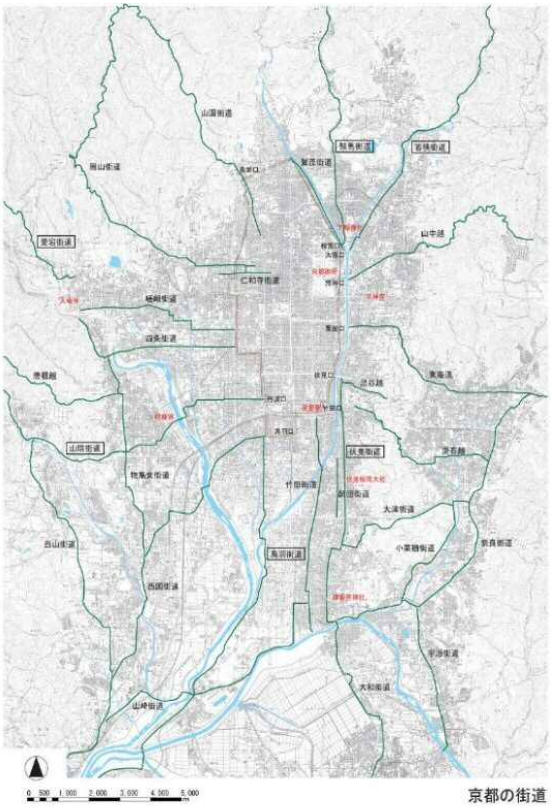

図 2-67　京都の街道